

2026年2月1日発行 小さな森こども園

厳しい寒さが続くこの頃。子どもたちは、ひんやりとした空気を肌で感じたり、吐く息の白さを楽しんだりと小さい体で季節を感じながら過ごしています。

さて、今年度も残り2か月となりました。卒園、進級に向けて子どもたちの成長を見守りながら1日1日を大切に過ごして行きたいと思います。



おねがい

冬はつなぎ、ジャンパーズボンが濡れてしまうことがありますので、子どもたちが入れやすいように、必ず毎日大きめの袋を持たせてくださるようお願いします。



2日(月) 身体測定
3日(火) 節分 豆まき会
10日(火) 避難訓練



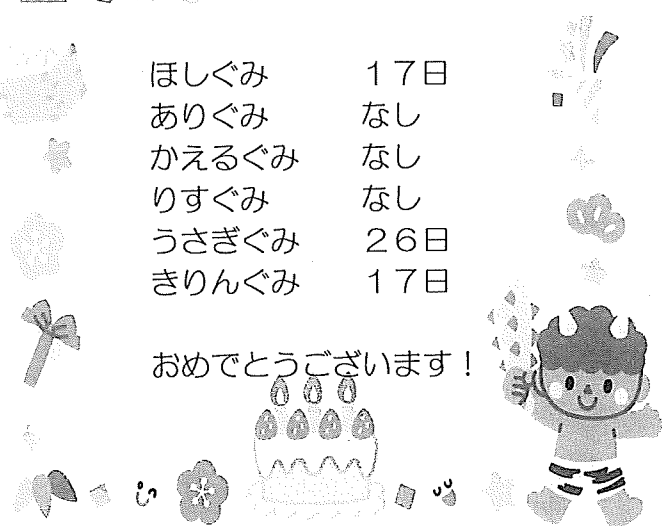
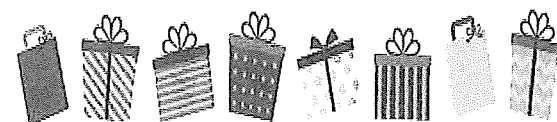
年長行事予定

4日(水) HIPHOP
5日(木) サッカー教室
13日(金) 英語で遊ぼう
体操教室
18日(水) HIPHOP
19日(木) サッカー教室
27日(金) 英語で遊ぼう
体操教室
28日(土) 桃の節句お祝い会

2月生まれのおともだち

ほしぐみ 17日
ありぐみ なし
かえるぐみ なし
りすぐみ なし
うさぎぐみ 26日
きりんぐみ 17日

おめでとうございます!



「勇気づけ」できていますか？

「この世界は信頼してもいい場所かどうか？」と、子どもは親を通して世界(他者)を見るように。自分が共同体の一員であり、「大人は仲間なんだ」という共同感覚を育む勇気づけが大事です。子どもを信頼し、子どもとよい関係を築くには、尊敬と信頼が不可欠です。

【自分の課題が自分でできる子に。親がすべきことがあります！】

子どもは自分を叱る人を好きになれません。叱ってしまうと、子どもとの距離が遠くなり、関係が疎遠に。叱るよりも、応援したいのでは？子どもが「この人は味方だ、仲間だ」と思えるほうが、親は子どもの援助をしやすくなります。

感謝のことはがけをする

子どもは「自分でもひとの役に立っている」と思えるとき、自分のことが好きになれるのです。そのように思えるように「ありがとう」「助かった」という言葉を子どもにかけましょう。自分に価値があると思えると、他者から何も言われなくても、自然と勇気が湧き、積極的に課題に取り組めるようになります。

できることに注目する

無事、1日終わったことを当たり前と思わず、できたことに注目して。「今日あなたが保育園に行ってくれて、お母さんもお父さんも仕事が出来てすごく助かった。きょうも1日元気で無事に過ごしてくれてありがとう」と、朝の登園をしる子を叱らなくなるはずです。

自分を好きになれる子を育てたいですね！

【自分に価値があると思えると、ひとは勇気が出る】

友だちや家族だけでなく、ちいさな動物や植物も子どもたちの仲間です。毎日水やりをしたり、猫や犬の世話をすることからも、子どもは「誰かの役に立ちたい」気持ちが前向きになっていきます。

ほめない、評価しない

「えらいね」とか「よくできたね」とほめていませんか？「ほめられたいからする」のでは自分の評価を他者に依存する子どもになってしまいます。ひとの期待のために生まれてきているのではありません。ほめられなければ頑張らない子では、自立とは言えません。

「役に立ちたい」という、こころを育む

「ありがとう」「助かった」ということばがけでなく、日常生活の中のお手伝いや、動物の世話、植物の水やりなどでも自信(自己有用感)は育まれます。自分が誰かの「役に立っている」とわかれば、そんな自分は価値があると思え、自分が好きになります。

2025年クーヨン12月号より抜粋

